






データを活用したまちづくり

取組の **ヒント** と **事例**













Lider, まちアプリ, 交通IC, AIカメラ, 地域ポイント, 3D都市モデル...
データを使いこなせば, まちが見える, 人が動く. 各地で広がるデータまちづくり, データを使いこなすための一歩を.

もくじ

はじめに

第1部 データを活用したまちづくりのヒント	頁
1. データを活用したまちづくりが求められる背景と方向性	1-2
1.1 データを活用したまちづくりが求められる背景	1-2
1.2 データを活用したまちづくりが目指す方向性	1-5
2. データを活用したまちづくりに向けた準備 	1-7
3. データを活用したまちづくりの取組	1-31
3.1 まちづくりへの新たなデータの活用イメージ 	1-32
3.2 段階別でのデータを活用したまちづくりの取組	1-49
3.3 まちづくりの好循環の創発 	1-68
4. データを活用したまちづくりの推進に向けた留意点	1-73
4.1 官民データ連携の方向性 	1-74
4.2 データを活用したまちづくりの担い手 	1-89
4.3 データ活用への市民参加	1-102
4.4 パーソナルデータの取り扱い 	1-111

 : 第1.1版での更新箇所

第2部 データを活用したまちづくりの事例	頁
1. データを活用したまちづくりの事例	2-3
 ・既存データ活用	
 ・ウォーカブルなまちづくりの推進	
 ・エリアマネジメントでの活用	
 ・モビリティ関連	
 ・コンパクトシティの形成	
 ・観光振興	
 ・滞留・密対策	
 ・防災まちづくり	
 ・ゼロカーボン（低炭素まちづくり）	
 ・インフラ維持管理	
 ・健康	
 ・まちづくり共通	
2. データ分析事例	2-43
3. 参考資料	2-47

参考 | データ駆動型社会に対応したまちづくりに関する勉強会

検討体制 参考-1

検討経緯 参考-2

付録資料 |

- 1 都市計画基礎調査のオープン化
- 2 3D都市モデルの構築・利活用の推進
- 3 データの収集に必要なセンサー等の設置への支援
- 4 データ活用まちづくりに関するアンケート調査結果概要

はじめに

✓ 目的

- ・近年、デジタル化の動きが加速するなか、新技術等の活用によりまちづくりに関わる様々なデータの取得や分析が容易になってきました。こうしたデータの活用により、まちづくりの計画検討の深度化や都市空間等を活用した都市サービスの充実化など、まちづくりの高度化が期待されているところです。
- ・こうしたなか、様々な官民のデータを活用することによるまちづくの高度化を推進を図るため、「データを活用したまちづくり～取組のヒントと事例～（以下：本書）」では、まちづくりの現場での参考となるよう、第1部において、まちづくりの段階別でのデータの活用方法や、官民連携での取組の考え方など、データを活用したまちづくりに取り組むにあたってのヒントを紹介し、第2部ではその具体的な事例を紹介することに加え、自治体によるオープンデータの取組や、官民でのデータ連携の取組についても事例を紹介し、

✓ 想定する対象

- ・まちづくりの主体である地方公共団体の職員を想定することに加え、市街地整備などの実務を担う民間コンサルタントやエリアマネジメント組織の担当者などを主な読者として想定しています。
- ・加えて、まちづくりに活用が期待されるデータには民間事業者が保有するデータも多く含まれることから、地方公共団体とともにまちづくりに取り組むサービスなどの様々な民間事業者の担当者も想定したものとしています。

✓ 検討の経過

- ・まちづくり分野における官民データの収集・利活用にあたっての課題の整理や改善策の専門的課題の検討を行う「**データ駆動型社会に対応したまちづくりに関する勉強会**」（2020年11月～2021年3月）における、全5回の議論の成果を第1版（ver1.0）として取りまとめました。
- ・本書第1版（ver1.1）は、令和3年度におけるデータ活用の最新事例等を踏まえ内容の拡充・更新を行ったものです。更新のポイントは次頁を参照ください。

参考資料：
P参考-1

第1.1版 更新のポイント

✓ 更新ポイント1：まちづくりへの活用が期待できるデータの情報拡充

- ・データを活用したまちづくりの準備においては、データを活用する目的に応じて、適切なデータの種類を選択して活用することが重要です。今回新たに、まちづくりにおいて新たな技術により活用できるデータとはどのようなものを理解いただくため、どのような種類のデータが活用できるか、各データの概要をイラストを交えて解説するとともに、データの特徴（把握できる主な情報、データの粒度、取得方法）についての情報を拡充しました。

✓ 更新ポイント2：データ活用における具体的な活用イメージの追加

- ・前版(ver1.0)では、まちづくりの段階である「計画・整備段階」、「利活用段階」、「モニタリング・評価段階」毎に、データ活用の取組を紹介していましたが、今回、新たなデータの活用場面を具体的に理解いただくため、データの種類ごとにデータを活用したまちづくりのイメージを追加しました。
- ・まちづくりの各段階に一貫してデータ活用を行うことにより、都市空間と都市サービスが相互に価値を高め合う好循環を生み出していくことが期待できます。このサイクルの具体的な取組みイメージの解説を加えています。

✓ 更新ポイント3：スマートフォンアプリを活用した官民データ連携の解説

- ・前版(ver1.0)においても、まちづくりに関するデータ取得方法として、スマートフォンアプリを活用した取組を紹介しましたが、エリアマネジメント団体等が運営主体となったスマートフォンアプリを介した都市サービスの提供が、近年が増加していることを踏まえ、スマートフォンアプリを活用した都市サービスの提供とデータ収集・共有・活用についてのあり方を解説しました。加えて、これらに類似する取組事例を紹介しています。

✓ 更新ポイント4：データ活用したまちづくり事例の充実化

- ・実際にデータ活用してまちづくりを行っている事例について新たな事例の追加及び事例の更新により、充実化を図りました。
- ・既存データの活用事例として、住民基本台帳データを活用した施策分析や、エリアマネジメント、モビリティ、観光振興、健康等の分野に関するデータを活用したまちづくりの事例拡充を行っています。

第1部

データを活用したまちづくりのヒント

本書は、データを活用したまちづくりを行う上で想定される以下のような質問にお応えします。

質問

手引きの記載内容（参照頁）

◎ 新たなデータを活用したまちづくりにより何が実現できるのでしょうか	● 新たなデータは“3つの特徴”があり、まちづくりへ効果的な働きが期待できます ➔ 新たなデータには、早く、細かく、新しくという特徴があり、これらのメリットを活用し、効果的なまちづくりが可能となります（P1-4）
◎ 新たなデータとは、どのようなデータなのでしょう	● 新たなデータについて、内容、活用方法を解説します ➔ 新たなデータについて、その内容、メリット・デメリットについて解説しています（P1-9～） ➔ 様々な場面で活用されるようになった人流データをはじめ、車両、ICカード、衛星、不動産、消費、電力、健康データについて、今後更なる活用が期待されるデータも紹介しています
◎ 庁内データを有効活用してまちづくりができませんか	● 行政内部のデータだけでも様々な活用方法があります ➔ 庁内データの中でも、まちづくりのために活用できるデータはあるはずです。棚卸しをしてみましょう（P1-21） ➔ 例えば、住民基本台帳の個票データの活用により、きめ細かい政策決定が可能となります。個人情報の取り扱いに留意つつ、利活用されている事例もあります（P1-126／第2部：P2-3～2-7） ➔ 行政データを活用してもらう視点も重要で、そのためにはオープン化も効果的です（P1-75）
◎ ○○計画を策定する予定です。活用できるデータや活用の仕方を教えてください	● 計画策定に必要な地域課題を明らかにするためのデータ活用方法を紹介しています ➔ 様々な計画を策定する上で必要となるのが、まちの課題を明らかにすることです。まちの課題を明らかにするための新たなデータ（既存データ含む）活用イメージを紹介しています（P1-34～） ➔ 昨今注目が集まっている、より身近なエリア（ネイバーフッド）単位での課題把握も可能です（P1-46）
◎ 官民で連携してデータ活用していくことのメリットは何ですか	● 民間事業者と連携により、まちづくりの各段階における一貫性のあるまちづくりが可能となります ➔ 公共だけでは行き届かない領域において、民間事業者による「データ提供」や「サービス提供」などが期待できるため官民連携が重要です（P1-74） ➔ 官民でデータを共有・活用することで、一貫性のある効率的なまちづくりが可能となり、まちづくりの好循環により都市の将来像の実現が期待できます（P1-68～）
◎ データ活用に対応した人材の確保・育成はどのようにすればよいのでしょうか	● データを活用したまちづくりの中核的な担い手としての中間組織の活用や、庁内人材の育成について紹介しています ➔ データを活用したまちづくりの担い手としての中間組織の活用が有効です（P1-89～） ➔ 庁内人材においては庁内での仕組みづくりや、外部アドバイザーや大学等の連携が有効です（P1-98～）
◎ 実際の事例でどこまでデータを活用した取り組みは進んでいるのでしょうか	● 第2部では、実際の取り組み事例をもとにデータ活用のイメージや取り組み方を紹介します ➔ 第1部で解説しているような理想的なデータ活用ができていない事例は、実際の事例では多くありませんが、実際のまちづくりにおいてデータを活用した事例を、まちづくりの取組分野毎に紹介しています